

新登録答申文化財概要（三重県）

● 神楽酒造酒蔵兼釜場 （四日市市）

【名 称】 神楽酒造酒蔵兼釜場

かぐらしゅぞうさかぐらけんかまば

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県四日市市室山町 326

【年 代】 安政 5 年（1858 年）大正後期増築、平成 19 年改修

【建築面積】 557 m² 延床面積 785 m²

四日市市の西部に位置する四郷（よごう）地区は、19 世紀に入ると味噌、醤油、清酒、清酢といった醸造業が盛んとなり、それに加え製茶、製糸、紡績も発達するに及び、三重県の経済を牽引する地区へと急激に成長しました。そのひとつである神楽酒造は名酒「神楽」の醸造元で、各工場の林立した四郷地区の歴史的景観を構成する要素となっています。

酒蔵兼釜場は、2 階建て切妻造りの東西棟で、東西 28.2m（桁行 15 間半）、南北 14.5m（梁行 8 間）で、南側に東西 6.5m（梁行 6.5 間）、南北 8.2m（桁行 4 間半）の釜場が突出します。1 階は土間で、洗米場、蒸米場、麴室等に利用されており、瓶詰め作業も行われています。2 階も醸造作業に利用されていましたが、現在は物置としています。釜場には煉瓦造煙突を備え、一部は検査室や事務室になっています。全体的に内部は作業場としての大規模な空間となっており、それを支える柱や梁等の豪壮な構造部材が露出し、迫力のある景観を示しています。これらには、かつて醸造で使った部材等を設置した痕跡も残っており、当時の作業手法を考えるうえで貴重なものです。建築年代は、文書史料から江戸時代末期の安政 5 年とされ、改修や減築を受けながらも当時の醸造業の様子を今に伝えています。

このように、機械化以前の醸造業のありかたを検討する上で貴重な建造物であることに加え、四郷地区の歴史的景観に寄与する建物といえます。



南側外観



1 階内部

新登録答申文化財概要（三重県）

● 神楽酒造西酒蔵 （四日市市）

【名 称】 神楽酒造西酒蔵

かぐらしゅぞうにししかぐら

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県四日市市室山町 326

【年 代】 明治中期 平成 19 年改修

【建築面積】 406 m²

西酒蔵は、酒蔵兼釜場に接して建ち、両者は、一体の建物とみえる形状をしています。酒蔵兼釜場の西側に2棟の東西棟を密接して並行させ、内部は一体の空間となっています。全体として東西 21.8m（桁行 12 間）、南北 18.6m（梁行 10 間）の大規模なもので、醸造作業に使用されていました。現在は、2階を倉庫、1階を仕込みの作業場としての利用に加え、一部を酵母室や神楽酒造の歴史を伝える道具や史料を保管・展示する展示室としています。この様に内部の大半は作業場としての大規模な空間となっており、酒蔵兼釜場と同様に、それを支える柱や梁等の豪壮な構造部材が露出し、迫力のある景観を示しています。建築年代は、古写真や口伝から明治の中頃と推測され、酒蔵兼釜場よりもやや遅れて建築されたようです。和釘を使用する酒蔵兼釜場に対し、洋釘が使用されていることもこれを裏付けます。本来は、さらに南側に1棟並行し、並行する3棟一体となった大規模な空間を構成していましたが、道路拡幅により減築されています。しかし、減築されたとはいえ大規模な空間を保持しており、大規模な空間を実現する建築手法等を今に伝える貴重な建造物と評価できます。さらに、酒蔵兼釜場と一体となって四郷地区の歴史的景観に寄与する建物といえるものです。



2 棟が並行する南西側外観（遠方は酒蔵兼釜場）



2 階内部 2 棟接合部

新登録答申文化財概要（三重県）

● 大村神社本殿 （伊賀市）

【名 称】 大村神社本殿

おおむらじんじゃほんでん

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県伊賀市阿保 1555 番地

【年 代】 明治 23 年

【建築面積】 22 m²

大村神社は、阿保（あお）地区を開拓したとされる大村神を主祭神とする神社で、平安時代の書物『延喜式』に記される歴史ある神社ですが、戦国時代の織田信長による伊賀攻めの際に被災しています。その後まもない天正 15（1587）年に建築された宝殿（ほうでん）は、国の重要文化財に指定されています。

本殿は、4 殿あった社殿を集約するかたちで明治 23 年に新築されたもので、それまでの本殿であった宝殿を西に移し、その場所に建築されました。入母屋造り（いりもやづくり）の檜皮葺（ひわだぶき）で、壁は板壁です。正面は 1 間、背面を 3 間とし、側面は 2 間、正面にはさらに 1 間の向拝（ごはい）が付きます。春日造の宝殿と調和するように建てられており、拝殿（はいでん）や参籠所（さんろうしょ）等を含め、これらが一体となって境内の景観が形成されています。

このように、大村神社本殿は、境内の歴史的景観に寄与することに加え、近代の神社建築を考えるうえで貴重な建造物といえます。



本殿と宝殿（本殿は奥、手前は宝殿、北西から）



正面